

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1935号 2008年08月25日(月)

## 《 Mart is looking for a new direction 》

今週はそれぞれの通貨関係で強まっている膠着感から市場が抜け出すかどうかが目と鼻の先。ドル・円では先週一時108円台の前半までドル安・円高が進んだ。しかしその後は原油安やニューヨークの株高を受けてドルが大きく反発。週末は110円前後だった。一方これまでドルに対して下げ続けていたユーロは、1ユーロ=1.46ドル前後を境目にして、徐々にユーロが反発しつつあるように見える。

全体的にはドルが大きな反発期を終えて、今後の行く先を探している状況だ。ドルを高値で維持したいアメリカ政府の意向や、ドル安の大きな背景となっていた原油高が大きな修正局面に入っていることを考えれば、ドルにはもう一段の高値追いがあってもおかしくないように見える。

しかしアメリカ経済が抱える景気悪化、失業率の上昇、金融機関に対する経営不安などの問題を考えれば、また今のアメリカ経済にとってはドル安による輸出増しかエンジンがないことを考えれば、ドル高にも限界があると容易に想像できる。その両方の力が働いているので今の市場では「膠着感」が強い。しかし夏も終わって徐々に市場参加者が戻ってくることや、季節的にも通貨がよく動く秋にはいることから、市場が動意付くことも予想される。

今週もこうした相対立するパワーのぶつかり合いの中で市場は展開するだろう。つまり米経済の推移に対する関心を払いながら、ドルを買う限界を探るといった動きである。今週の指標では、アメリカの住宅に関するものが注目される。7月の中古・新築住宅販売件数やケースシラー住宅価格指数など。

今週の主な予定は以下の通りです。

- |          |  |
|----------|--|
| 8月25日(月) | 白川日銀総裁記者会見(大阪経済4団体懇談会出席)<br>米7月中古住宅販売件数<br>米民主党党大会(~28日、コロラド州デンバー)<br>英国市場休場(サマーバンクホリデー) |
| 8月26日(火) | 7月企業向けサービス価格指数<br>独8月Ifo景況感指数<br>米6月S&Pケースシラー住宅価格指数                                      |

	米 8 月コンファレンスボード消費者信頼感指数
	米 6 月新築住宅販売件数
	米 4~6 月住宅価格指数
	米 F O M C 議事録公表 ( 8/5 開催分 )
8 月 27 日 ( 水 )	米 MBA 住宅ローン申請指数
	米 7 月耐久財受注
8 月 28 日 ( 木 )	須田・日銀審議委員 講演・記者会見 ( 金沢市 )
	米 4~6 月 G D P ( 改定値 )
8 月 29 日 ( 金 )	7 月家計調査
	7 月労働力調査
	8 月都区部・7 月全国消費者物価
	7 月鉱工業生産 ( 速報 )
	7 月商業販売統計
	7 月住宅着工件数
	7 月建設工事受注
	米 7 月個人所得・支出
	米 7 月 PCE コアデフレーター
	米 8 月シカゴ購買部協会景気指数
	米 8 月ミシガン大学消費者信頼感指数 ( 確報値 )

### 《 Obama is losing momentum 》

今週から、アメリカの政治が動き出す。週初から米民主党大会が開かれ、そこでバラク・オバマが、そして9月に入って直ぐに行われる共和党大会ではジョン・マケインが大統領候補に選出される運び。注目された副大統領候補には、オバマがジョセフ・バイデン上院外交委員長 ( 65 才 ) を選出した。マケイン候補の副大統領候補も間もなく発表される。アメリカは本格的な次期大統領の選出期間に入ることになる。

選挙戦全体を取り巻く環境は我々が北京オリンピックに目を奪われているうちに大きく変化した。端的に言えば、オリンピック以前には圧倒的に優位だったオバマ候補が支持率を伸ばしきれない中で、マケイン候補支持率がジリジリと上昇して一部の世論調査結果ではオバマ候補を上回ったことである。「46%対41%の支持率でマケイン優位」との調査結果を出したのはロイターとゾグビー ( 世論調査機関 ) 。

もっとも先週末には有力マスコミの手になるいくつかの世論調査結果が出て、「拮抗」と出た調査もあるし、「依然オバマが小幅優位」と出た調査もある。しかし全体に言えることは、「圧倒的に世論調査結果でかなりのポイントでマケイン候補を引き離していたオバマ候補の優位はほぼ消えた」ということで一致している。

ここに来て支持率が拮抗、ないし逆転してきた背景には以下の理由が指摘できる。

- 1 . グルジア情勢の緊迫化、パキスタンでのムシャラフ辞任などアメリカを取り巻く外交環境が緊迫化すると同時に、経済でも不安定要因が強まっていて、経験のあるマケインに安心感が出てきている
- 2 . ヒラリー・クリントンとの激しい選挙戦の後遺症が依然として大きく、クリントン支持者の約半数はオバマ支持に態度を変えたが、依然として四分の一近くの方は「オバマには投票せず、マケインに投票する」と述べていると言われる
- 3 . オバマ候補が、油田開発問題やイラク駐留米軍の撤退問題などいくつかの争点に関して中間層の取り入れをはかるために立場をやや変えたことで、「裏切られた」と感じた従来の支持者の間で「オバマ離れ」が起きている
- 4 . 「セレブ」「高慢」などマケイン候補のオバマ批判が奏功する一方で、オバマ候補が露出過を避けるために夏休みを取ったことから8月に入って存在感を低下させた

など。この週末のニュースとしては、オバマ候補(47才)が65才のバイデン上院外交委員長(デラウェア州選出、出身はペンシルベニア州)を選んだのは、明らかに「1」で指摘した弱点を埋め合わせる狙いを持たせたものである。しかしそれは週末の新聞のいくつか指摘している通り「両刃の剣」である。なぜなら、自分より20才近く上の、どう考えても「ワシントン・インサイダー」の副大統領候補を選ぶことは、「斬新さ」のウリを失う危険性を意味するからだ。

もっとも流れが徐々にマイケイン候補に出来つつあるといっても、彼の方にもその流れを一気に自分のものにする勢いはマケイン候補にはない。一つのポイントは副大統領候補者に誰を選ぶかだろう。ワシントン・インサイダーを選んだオバマに対して、斬新で、かつ女性の副大統領候補を選んだなら、マケイン株は大幅に上がる可能性がある。マケイン・サイドの女性副大統領候補者としてはHPのトップだったカーリー・フィオリーナなどの名前が挙がっているとも言われる。

11月まで続く長丁場の選挙戦。何があっても不思議ではないが、筆者はオバマ候補の方に「自分は大統領になる準備が出来ている」ということを国民に納得してもらう必要性に迫られつつあると考える。

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。最初から期待しなければ良かったのですが、それでもやってくれるかもしれないと思っていたので、野球少年であった私は日本の野球チームの北京でのふがいなさにはがっかり。金曜日に呆れ、土曜日には呆然としました。

まあ「仲良し3人組」で組閣したところから間違いでしょう。山本浩二など守備・走塁コーチの経験もないのにその役割を担った。北京でプレーした8チームの中で、一番守備が酷かったのは日本だったと思う。GG 佐藤はDHで使えばよいのに最後まで左翼で使って傷口を

上げた。投手起用も全く理解できない。日本中の野球好きはそう思ったのでは。星野さん独特の「こだわり」が組閣、チーム編成から日本のチームを理想から遠ざけたように思う。試合運びもそうだった。首脳陣には国際試合の経験がある人は大野ピッチングコーチくらい。

北京の結果を受け、また指摘した事情も含めて言うと、日本のプロ野球はケイタイと同じ「ガラパゴス」だったのかもしれない、という意識が必要でしょう。今回は特にそうだった。今回日本チームは国際審判を招いて練習試合さえしなかった。優勝した韓国の場合今年年初から国際球を使ってシリーズをやっていたそうだ。韓国はオリンピック期間中シーズンを止めてもいる。

選手の気持ちも実は星野さんから離れていたとも聞いている。その原因についてもいろいろの説があるが、あまり野球ファンとしては聞きたくない話もある。実際のところ、「チーム一丸」という印象はしなかった。選手には北京で頑張る理由が希薄だったのではないかとも思う。監督など首脳陣ばかりにメリットがあるシステムに嫌気を示していた選手もいたと聞いた。

それは日本のオリンピックチーム全体の問題でもあったようだ。選手はほとんどエコノミーで行ったのに対して、役員はほぼ全員が最低ビジネス・クラスで北京に乗り込んだそうだ。戦う選手が窮屈なエコノミーで、役員が乗り心地の良いビジネス以上とは。背の高い人、柔道で巨体の人も居たはずなのに。市場が大きい豊かな日本市場で育った日本の選手が海外で戦うのは、それなりきのインセンティブが必要だ。豊かな国内市場を持つ競技ほど、本来持つと思われる力が出せなかった。男子の野球とサッカーがその良い例だ。

日本選手で素晴らしいメダルを取った種目を見ると、「予算も十分ではなかっただろう」と思われる競技が多い。実業団があるが、日本のソフトボールはそれほど豊かな競技種目ではないでしょう。男子の野球もサッカーも選手にとっては「片手間」だったのではないか。女子のサッカーとソフトボールは違った。考え方を変えないといけないと思う。まあでも見所のあったオリンピックではあったと思う。日本の素晴らしいメダルもあった。

ポスト・オリンピックの中国がどう展開するのも見所の多いものにはなるでしょうが、それでは皆様には良い一週間を。

*《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》*